

## 大学の世界展開力強化事業（平成 24 年度採択） 中間評価結果

大 学 名	京都大学
整理番号	Ⅱ－3
構 想 名	「開かれた ASEAN+6」による日本再発見—SEND を核とした国際連携人材育成

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
<b>B</b>	
(コメント)	<p>本プログラムは、「ASEAN+6」として ASEAN に中国、韓国、台湾、インド、ネパール、オーストラリアを加えた国を中心とする 37 大学がアジア研究国際コンソーシアムを形成し、日本人自身が日本を「再発見」というプロセスを経験することにより、グローバル人材を育成することを目的としており、SEND プログラムを核とした学部から大学院博士課程までを含む段階的な取組である。</p> <p>実施母体である「アジア研究教育ユニット」を設立し、異文化交流教育、国際連携専門教育、国際連携研究指導の各段階において学生交流プログラムを実施している。また、交流先を拡大するとともに、SEND プログラムの準備教育である「日本語・日本文化演習」をはじめとする系統講義「京都で学ぶアジアと日本」を構築するなど、ユニークな取組となっている。</p> <p>一方で、様々なプログラムが同時に進行しており、育成する人材像が明確になっていないように見受けられる。特に、本プログラムの中核をなす SEND プログラムの位置付けが明確ではないため、今後、SEND プログラムとの組み合わせによる取組の進展が期待される。</p> <p>また、交流学生数は、派遣・受入いずれも数値目標を上回っており、学生に対する支援体制も十分に整備されているものの、依然として ASEAN 以外（「+6」）の大学との交流学生数が多くを占めている。今後、本事業の主たる目的である ASEAN の大学との学生交流をより一層強化し、「ASEAN」を中心としたプログラムを展開していく必要がある。</p>